

令和元年 6月 7日

南の風 2019 女子日本代表国際強化試合

～ 水戸大会特集号Ⅲ ～

南支部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

女子日本代表のディフェンスの続きです。

ベルギー代表には今回2m級の選手はいませんでした。センターポジションの選手（193～196 cm）が4人いました。特徴としてポストでのスピントーンが抜群に速く、一人では対応することができませんでした。特にローポストでボールを持たれてしまうとお手上げでした。女子日本代表にとってポストでボールを持たさないようにディフェンスすることは、これからも大きな課題になります。

①についてです。まず大切なことは、相手のC（センター）にストレスを与えることです。エントリーの時からコンタクトして少しでも嫌がらせ、行きたいポジションに行かせないようにします。ディフェンスはボールとポストマンを視野に入れ、ペイントエリアの外側から密着してプレッシャーを掛けます。できる限りリングに近づけないようにすることを徹底するのです。そしてボールが入りそうならば、素早くダブルチームします。（ボールが入ってからでは遅いのです）

ダブルポストの場合はさらに厄介なのですが、リングに近いポストマンを優先して守ります。すべてを守ることは不可能なのですから、リスクの高いプレイヤーから徹底マークします。

②です。ボールがポストに入ってしまったら、まず直接攻撃があるかを予測します。同時にリロケートされるか読みます。（5人全員の意識が大事になります）またドライブからのポストマンへの合わせやキックアウトに対しては、ドリブラーの意図を判断することと瞬時のローテーションが必須となります。

③のプレスディフェンスは、リオ五輪時の形態と変わっていないようでした。サイドラインやコフィンコーナーへの追い込み、ダブルチームのタイミングやラン&ジャンプ、ローテーションからのパスカットはかなり修練されていました。時間帯、場所、状況を判断して掛けることが成功の秘訣です。さらにプレイの質を上げることを期待します。

ここで第2戦にも触れておきます。

《第2戦の結果》 日本代表 84 — 71 ベルギー代表

《第2戦の主なスタッツ》

	2 P	3 P	F T	O R	D R	T O
日 本	14/26 54%	12/31 39%	20/21 95%	6	19	11
ベルギー	21/35 60%	6/16 38%	11/16 69%	8	21	20

日本代表の3Pシュートの精度は落ちたものの、試投数は第1戦と変わっていません。「私たちは3Pシュートを打つんだ!」というメッセージが伝わってきました。さらに決定率を上げてほしいです。

さて女子日本代表の今後ですが、FIBA 女子アジアカップ 2019（4連覇が懸かる）が9月以降に行われます。脅威となるのは、前回のワールドカップで敗れている中国です。若手に切り替え、3P シュートを打てる2m 級を4人以上揃えています。まずはアジア4連覇にチャレンジです!!